

船舶インシデント調査報告書

令和7年3月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（バッテリー過放電）
発生日時	令和5年11月1日 23時40分ごろ
発生場所	大分県佐伯市沖黒島北西方沖 沖黒島灯台から真方位295° 1.3海里付近 （概位 北緯32° 53.4′ 東経132° 00.6′）
インシデントの概要	プレジャーボートUNIVERSEは、船外機を停止して錨泊中、船外機が始動できなくなり、運航不能となった。
インシデント調査の経過	令和5年12月7日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート UNIVERSE、5トン未満（長さ6.27m） 294-22209大分、個人所有 ガソリン機関、船外機、4サイクル、出力66.20kW、回転数毎分5,500、4気筒、ボア79mm、使用燃料ガソリン、機関製造年月日不詳、平成13年8月進水
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏
インシデントの経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人1人を乗せ、釣りの目的で、沖黒島北西方沖で船外機を停止して全周灯を点灯し、GPSプロッターを作動させて錨泊していた。</p> <p>船長は、釣りをやめて帰航することとし、船外機を始動しようとしたところ、セルモーターが回らず、始動できなかった。</p> <p>船長は、運航不能と判断して、携帯電話で118番通報し、本船は、来援した巡視艇にえい航され、佐伯市色宮漁港に到着した。</p> <p>船外機は、本インシデント後、船長の知人が並列接続された12Vのバッテリー2台を交換したところ、復旧し、同バッテリーの充電容量が低下していたことが判明した。</p> <p>船長は、バッテリーについて、約10年前に購入して以来、発航前に電解液の量、端子の錆の有無を点検していたものの、電圧の測定を行ったことはなく、船外機が始動しづらいこともなかったため、交換したことはなかった。</p> <p>バッテリー製造会社によれば、バッテリーは、約2～3年で定期的な交換を推奨しているとのことであった。</p>
分析	本船は、船外機を停止し、全周灯を点灯してGPSプロッターを作

	<p>動させて錨泊中、船長が、約10年間バッテリーの電圧を測定したことがなかったことから、バッテリーの充電容量が低下したことに気付かず、過放電となり、セルモーターが回らず、船外機が始動できなくなり、運航不能となったものと考えられる。</p> <p>船長は、船外機が始動しづらいことがなかったことから、バッテリーの充電容量が低下しているとは思わず、バッテリーの電圧を測定しなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、船外機を停止し、全周灯を点灯してGPSプロッターを作動させて錨泊中、船長が、約10年間バッテリーの電圧を測定したことがなかったため、バッテリーの充電容量が低下したことに気付かず、過放電となり、船外機が始動できなくなったことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船長は、定期的にバッテリーの電圧を測定し、充電容量が低下しているときは、充電又は交換を行うこと。 ・ 船長は、バッテリーが過放電した際、応急的に対処できるように、ジャンプスターターを備えておくことが望ましい。